三鷹市立第四小学校　令和8年度【　国語　】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	【成果】 ○文字を丁寧に書く姿が見られ、基本的な学習態度や習慣が身に付いている。 ○学校図書館を活用し、本に慣れ親むことができている。 【課題】 ○特殊音節や句読点などが未定着。 ○相手に注意を向けて最後まで聞くことや、大事なことを落とさず聞くことなど、聞く力が弱い。	【現状】 ○物語的文章では、面白かったところを発表したり音読劇を楽しんだりしている。説明的文章では、大事な言葉を見付けたり初めて知る内容に興味をもったりしながら、楽しく意欲的に文章を読んでいる。 ○ひらがなを中心に、文字を正しく丁寧に書くことや、言葉の学習に意欲的に取り組んでいる。 【課題】 ○長音、拗音、発音、促音などを正しく読み書きすることや「は」「へ」「を」を文中で正しく使うことが難しい。 ○文を書くことに慣れている児童とそうでない児童の差があり、書くことに苦手意識を持つ児童が一定数いる。 ○自分の考えや興味のあることを積極的に話すことができる一方で、大事なことを落とさないように集中して話を聞くことが難しい。	【習得と活用】 ○音声化や動作化を組み合わせることで、拗音、撥音の特徴をつかませたり、視写や聴写の指導を通して、文中で正しく「は」「へ」「を」つかうことができるようにする。 【補充的・発展的な指導】 ○読み聞かせの機会を確保し、読書や文章を読むことにさらに慣れ親しませる。 ○様々な機会に書く活動を取り入れ、自分の考えを書いたり正しく伝えたりすることに慣れ親しませる。 【三鷹　「学び」のスタンダードの活用】 ◎家庭学習に継続的に音読を取り入れることにより、音読の仕方を工夫させたり、言葉の正しい読み方を定着させたりする。 ◎タブレット端末を使った言葉の学習や問題演習を通して、書くことへの抵抗感を減らしていく。
第2学年	【成果】 ○音読練習を繰り返し行い、教材文の読み方や理解の向上に役立てた。 ○ワークシートを使って書くことで、自分の考えをまとめやすくなり、発表への意欲につながった。 【課題】 ○児童によって語彙量や書く力の差が大きい。既習漢字や原稿用紙の使い方、文法の理解の定着が課題である。	【現状】 ○本を読むのが好きな児童が一定数おり、物語文や説明文の内容を読みとることが概ねできている。 ○各場面における人物の心情や場面の状況を音読したり動作化したりすることに意欲的である。 【課題】 ○大まかな内容を理解してはいるが、叙述をもとに考えの根拠・理由を説明したり、要点やキーになる言葉を見付け出したりすることには課題がある。 ○書くことに対する苦手意識があり、どのように書き始めていいか、何を書いたらいいかわからない様子が見られる。	【習得と活用】 ○日常の学習の中で既習の漢字を使い、丁寧に書くよう指導する。 ○友達と考えを伝え合う場面をペアから全体へと段階的に取り入れていく。 【補充的・発展的な指導】 ○教科書の文章だけでなく、学校図書館司書と連携して必要な情報を集める活動を取り入れ、多様な書き方や語彙に触れさせていく。 ○漢字テストを定期的に行い、新出漢字や新出語句の確実な定着を図る。 【三鷹　「学び」のスタンダードの活用】 ◎要点やキーとなる言葉を書き出したり、調べたりして自学自習の方法を身に付けさせていく。
第3学年	【成果】 ○ノート指導や新出漢字の指導を授業で丁寧に行ったことで、ノートをよくとれる児童が増えた。 ○考えたことを伝え合う活動を通して、クラスメイトの発言をよく聞き取ろうとする児童が増えた。 【課題】 ○自分の意見を相手に伝わることを意識して書くことや話すことに課題がある。 ○新出漢字や新出語句の確実な定着が必要である。	【現状】 ○物語文において、音読したり、叙述に基づいて登場人物の心情を想像したりする活動に意欲的に取り組んでいる。 ○説明文において、新しい事柄を知ることに興味が強い。説明文の構成を理解して、文と文のつながりや役割を積極的に考えている。 【課題】 ○人前で話すことに苦手を感じている児童が一定数いる。相手に分かりやすく話すことに課題が見られる。 ○新出漢字の学習に意欲的であるが、定着に苦戦している様子が見られる。漢字を「読むこと」「書くこと」「使うこと」ができていない児童が非常に多い。	【習得と活用】 ○少人数のなかでの話し合いから大人数の前で話す活動まで様々な活動を設定する。人前で自分の考えを伝えたり、分かりやすく事柄を話したりする機会を増やすことで、話すことへの抵抗を減らす。 ○文章を正確に読む力を高めていけるよう、読書活動を推奨する。教材文の仕掛けや構成の工夫に気付けるよう、発問や学習活動を意図的に設定する。 ○新出漢字の指導を丁寧に行う。漢字の書き方や読み方だけでなく、その漢字を使った言葉にも触れることで、語彙力を高める。 【補充的・発展的な指導】 ○漢字の習得に向けて、繰り返し読む、書く、使う活動を行う。ゲーム要素を取り入れて漢字に触れたり、小テストを行い正確に書いたりできるようにする。 【三鷹「学び」のスタンダードの活用】 ◎自分の考えを伝えたり相手の話を最後まで聞いたりすることができるように、ペア学習やグループ学習で考えたことを伝え合う時間を多く取り入れる。
第4学年	【成果】 ○スピーチや話し合い活動等、継続的に考えの表出を行うことで、自分が考えたことや想像したことを文章や言葉で表現することができるようになってきた。 ○文学的文章では、叙述を根拠に、心情を想像できるようになってきた。また、説明的文章では、事実と意見の違いを区別できるようになってきた。 【課題】 ○児童によって考えたり想像したりする内容や質に差がある。また、文章理解力の個人差が大きいため、共有の時間で学び取れていることに差が出ている。	【現状】 ○叙述をもとにして登場人物の心情や場面の様子を想像したり、文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読したりできるようになってきている。 ○質問するなどして情報を集めたり、それらを発表する活動に意欲的に取り組んでいる。 【課題】 ○中心となる語や文を見付けて、文書の内容を要約することを苦手とする児童が多い。 ○読むことや話すことに意欲的に取り組む児童が多い一方で、書くことを中心として、語彙力や文章力が不足している。 ○タブレットに触れる機会が多くなり、読書の幅が広げられていない。	【習得と活用】 ○書く内容や順序を工夫して、誰に何のために書くのか、相手意識や目的意識をもって取り組めるようにしていく。 ○自分の言葉を使って考えを説明したり、習った文法や新出漢字を使って短文づくりをしたりと、言語活動の過程で実際に用いる場面を増やして段階的に指導していく。 【補充的・発展的な指導】 ○図書の時間を使って新聞を読んだり、本のポップや帯を作ったり紹介したりする単元の時間を通して、活字に触れる機会を設ける。 ○自主学習ノートを活用し、自分の興味の持った事をさらに深く調べたり、得た情報を学級に発信したりする活動を行う。 【三鷹　「学び」のスタンダードの活用】 ◎授業中に自分の考えを述べたり、他者の発言を集中して聞いたりする。 ◎ペアやグループ学習で考えたことを伝え合う時間を取り入れる。
第5学年	【成果】 ○読書する習慣が定着している児童がいる。 ○様々な言語活動を経験しており、既習の学習を想起しながら学習に向かう児童がいる。 【課題】 ○書字への苦手意識や課題がある児童が複数いる。 ○読書習慣が定着している一方、内容を正しく捉えられていない児童が一定数いる。 ○自分の考えがもてない児童と、自分の考えをもっていても文章全体の内容や文章構成を考えて書いたり話したりすることに課題がある児童に二分化される。	【現状】 ○本から知識を得ることが好きな児童が多く、読むことにおいては教材との出会いを楽しみにしている。 ○読むことにおいて、大まかには内容を把握し自分の考えをもつことはできている。 【課題】 ○読書に対する意欲の差がある。 ○作文の基本的なきまりが守れなかったり、自分の書いた文章を見返すことできなかったりする児童がいる。 ○漢字の書き取りに苦手意識がある児童が一定数いる。 ○読解に苦手意識があり授業に前向きでない児童がいる。 ○叙述をもとに考えの理由を説明したり、必要な情報を見付け出し要約したり要旨をまとめたりすることには課題がある。	【習得と活用】 ○単元のゴールや言語活動を明確に示し、児童が意欲的に取り組める学習課題を設定する。また、単元の導入で既習事項を振り返ることにより、児童がもっている知識や技能を意識しながら学習活動に取り組めるよう指導する。 ○書くことにおいて、他教科とも関連付けた言語活動を設定することにより、書いた文章を伝える相手をより明確にした指導を行う。 【補充的・発展的な指導】 ○児童が学ぶことに適した資料を用意するために図書館司書や市内の図書館等の密な連携を図る必要がある。 【三鷹　「学び」のスタンダードの活用】 ◎単元の学習計画を示す(児童と立てる)ことにより、見通しをもって取り組めるようにし、自主的に、資料を集めたり調べたり復習をしたりする時間を確保する。 ◎自主学習で取り組む課題の例示や友達の作品を共有し、学習したことをもとにより発展的な学習や既習事項の理解を深める機会を与える。
第6学年	【成果】 ○既習の学習を想起しながら関連付けたり読み深めたりしながら学習に向かう児童がいる。 ○書くことへの苦手意識が軽減し、自分の考えを書こうとする児童が増えた。 【課題】 ○自分の考えを時間内に書くことや分量を調整したり、内容を精査したりして書くことに課題がある。 ○読むことにおいて、文章全体の内容を捉え、分かりやすくまとめたり、自分の考えをもち伝えたりすることに課題がある。	【現状】 ○読むことにおいて、大まかには内容を把握し自分の考えをもつことができる。 【課題】 ○板書を写す、ノートにまとめる、ワークシートに書き込む等、「書く」こと自体の技能や意欲に差がある。 ○基礎的・基本的な知識を想起することに時間がかかり、既習事項を生かすことが不十分である児童に対する支援が必要である。 ○叙述をもとに考えの理由を説明したり、必要な情報を見付け出し要約したり要旨をまとめたりすることには課題がある。	【習得と活用】 ○単元のゴールや言語活動を明確に示し、児童が意欲的に取り組める学習課題を設定する。また、単元の導入で既習事項を振り返ることにより、児童がもっている知識や技能を意識しながら学習活動に取り組めるよう指導する。 ○書くことにおいて、他教科とも関連付けた言語活動を設定することにより、書いた文章を伝える相手をより明確にした指導を行う。 【補充的・発展的な指導】 ○漢字テストや書く活動を教科横断的に行い、日常から活用できる力を高める。 【三鷹　「学び」のスタンダードの活用】 ◎単元の学習計画を示す(児童と立てる)ことにより、見通しをもって取り組めるようにし、自主的に、資料を集めたり調べたり復習をしたりする時間を確保する。 ◎自主学習で取り組む課題の例示や友達の作品を共有し、学習したことをもとにより発展的な学習や既習事項の理解を深める機会を与える。